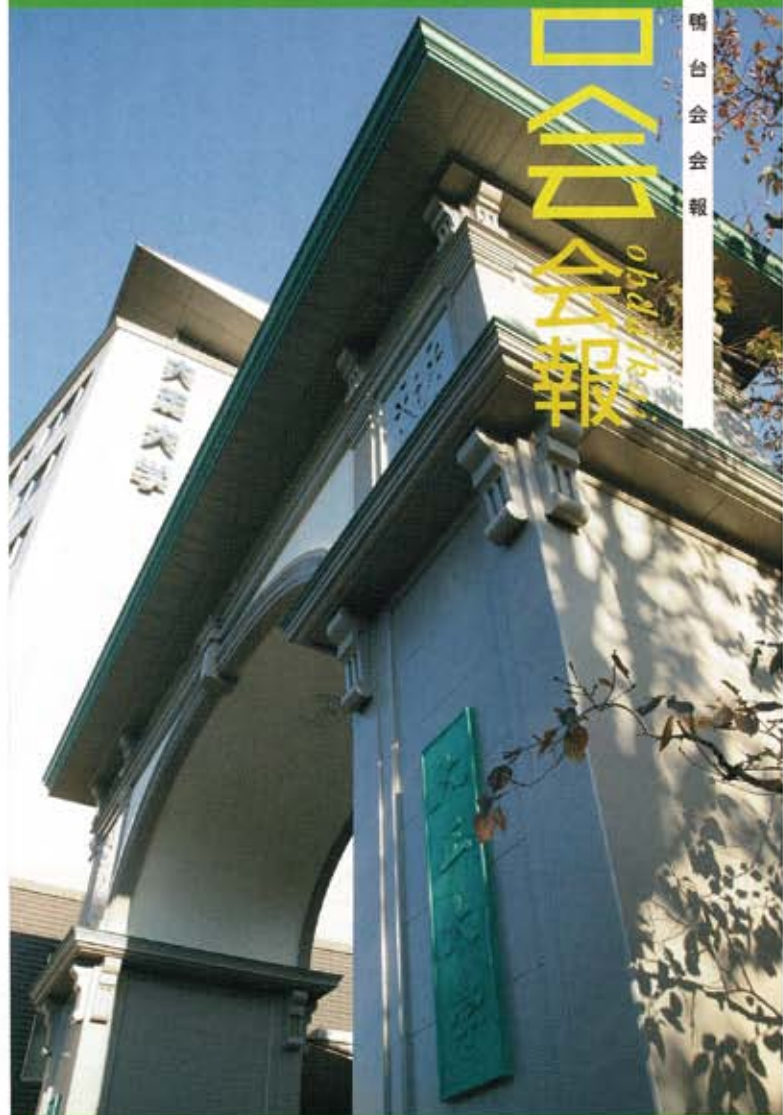


鴨台学生会報



建学の精神を次代に。新教育ビジョン「四つの人となる」

大正大学は2016年に創立九十周年を迎えます。大乗仏教思想の「智慧と慈悲の実践」は、いかに時代が変化しようと普遍ですが、それを具体化するためのビジョン（教育目標）は、社会の要請に応じて適切に順応できるものでなければなりません。

少子化、社会構造の変化が大学経営に影響をもたらす中、ミッション（使命）を実践するためのビジョン・戦略がますます重要になっていきます。まさに、大学競争時代を勝ち抜き、社会から評価・信頼を得る基軸と言えるでしょう。本学でも、継続と変化、「不易」と「流行」を両立する独自のビジョンを追求してきました。

「中期マスタープラン」（2009年3月策定）に採用された新教育ビジョン「四つの人となる」では、仏教の教えを基盤に、今を生きる知、心の有り様を明確に示し、学生のみならず、現代人の範とも言える内容となっています。ここには、本学が社会的責任を積極的に果たそうという強い決意が込められているのです。

- 一、慈悲 生きとし生けるものに親愛のこころを持てる人となる
- 二、自灯明 真実を探究し、自らを頼りとして生きられる人となる
- 三、中道 とらわれない心を育て、正しい生

き方ができる人となる

四、共生 とともに目的達成のための努力ができる人となる

「慈悲」は、建学の精神、ミッションそのものであり、「四つの人となる」全体を統括、総合するとも言えます。

「自灯明」は、「自立せよ」「自律をせよ」と受け止め、「学び」「考え」、そしてそれを継続することによってこそ自立した人間になれるという真理を説くものです。

「中道」は、「正しい生き方をせよ」と理解し、学びや生活の態度、姿勢はもとより、正しい倫理観と道徳観を持った生き方や心構え

特集

社会の期待に応える大学教育をさらに推進

- 建学の精神を次代に
新教育ビジョン「4つの人となる」
- アーバン福祉学科まち環境福祉プロダクトコース
フィールドワーク

TOPICS

同窓生の力を結集し、新教育ビジョンを推進
埼玉県支部総会「思いやりの心」フォーラム

同窓会ニュース
支部便り・同期会便り

平成22年4月1日発行
大正大学 同窓会「鴨台会」
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1
TEL.03-5394-3031 FAX.03-5394-3014

2010 APRIL
VOL.92

を身につけることを促しています。

「共生」は意味をさらに飛躍させて、社会・コミュニティにおける問題解決を推進する実践的リーダー育成に至る高い理想を掲げています。

もちろん、在学中にとどまらず、こうしたビジョンを生涯持ち続けてこそ、初めて実りあるものと言えます。言い換えれば、崇高なビジョンを目指し生きていく若者を、一人でも多く社会に輩出することが本学の使命であり、社会の期待に応える教育に他ならないのです。

ビジョンを行動に アーバン福祉学科 まち環境福祉プロダクトコースの フィールドワーク

ビジョン（教育目標）を推進するためにはさらに具体的な目標を設定し、教育方法を開発することが必要です。

2009年、人間学部にて「アーバン福祉学科」が開設されました。この「まち環境福祉プロダクトコース」の取組みをご紹介します。

環境というテーマは、自然破壊や開発といった問題から、私たちの消費意識、年金、医療、介護、子育てなど生活環境の問題まで、幅広い視点を含んでいます。人間が幸せに生きることができる社会を構築するためにはどうすればいいか。今、起きている諸問題に対して、自ら学び、考え、生きる力を備えた学生を育成することが、まち環境福祉プロダクトコースの狙いです。ここに「四つの人となる」のキーワードがすべて含まれていることは言うまでもないでしょう。

新構想では、ビジョンを具現化する教育方法として、社会とのかかわりの中で学ぶという姿勢を非常に重視しています。学生が社会から学ばせてもらい、一方でその成果を還元していく。この双方向の交流があつてこそ、本学が価値ある社会的責任を果たすことができるのです。

山形県長井市。山形新幹線赤湯駅から山形鉄道フラワー長井線で約30分。2009年9月中旬、ここをまち環境福祉プロダクトコース1年生32名が訪れました。

長井市が推進する「レインポープラン」は循環型農業で地域活性化を目指す取り組み。このレインポープランを中心として進めてきたのが、市内で農業と自然養鶏を営む菅野芳秀氏。現在、環境カウンセラー（環境庁）、環境アドバイザー（山形県）、アジア農産交流センター共同代表など多方面で活躍される同氏をアーバン福祉学科客員教授に招き、今回のフィールドワークが実現しました。

学生達は5日間同市に滞在し、農業体験、商工観光業の視察、市民との交流を行いました。高齢化、雇用など都市同様に地方もさまざまな問題を抱えています。環境から地域を活性化する好例を学ぶことで、学生たちの視野も大きく広がったはず。このフィールドワークに合わせて、長井市民文化会館で大正大学客員教授養老孟司氏による「生きる力」と題した特別講演会が開催されました。本学と長井市、青年会議所、レインポープラン推進協議会の連携によるもので、同窓会山形県支部の皆様の全面的な協力をいただき、約800名の聴衆が集まる盛況なイベントとなりました。

地域、卒業生が一体となった新しい教育モデルとして、今後も積極的に展開していきます。



養老孟司氏により特別講演会が開催された

2010年度より4学部体制へ 社会の期待に応える教育を推進

3月15日、礼拝堂において卒業式が行われ、994名（学部887／修士107）が社会に巣立ちます。それは同時に同窓会への仲間入りでもあり、若鴨たちの活躍を温かく見守っていたきたいと切に願うところです。

卒業生の活躍は、そのまま本学への評価につながります。おかげさまで2010年度入学生一般入試において、対前年度比2割増の受験生を確保することができました。これも偏に皆様の日頃のご活躍の賜物であり、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆様、そして社会の期待に一層応えるべく、本学は2010年度より、学部・学科体制をさらに充実させ、「文学部」「表

現学部」「人間学部」「仏教学部」の4学部7学科18コースを擁する文系総合大学として進化します。メディア、環境、福祉など現代的テーマに果敢に挑むとともに、社会貢献的視点から仏教をさらに深く探求する体制を整えます。

本学のミッション、ビジョンを展開するために、これからも教職員が一丸となって諸改革に取り組みで参ります。さらに連携を密にし、同窓生の皆様よりご指導、ご協力を賜りたく、何卒お願いいたします。



母校の発展を目指して



同窓会「鴨台会」会長 大室了晴

1、創立90周年を迎えるために

本学は2016年には90周年の栄えある年を迎えるにあたり、現在キャンパス総合整備事業が展開されています。

ソフト面での充実としては、従来2学部でありましたが、2010年度より、人間学部・文学部に仏教学部・表現学部を加えて念願の4学部体制となりました。

またハード面では、正門の設置（2008年竣工）。8階建ての新教育・研究棟（7号館）建設（3月竣工）。

卓球、空手、剣道、柔道、カバディ部の活動拠点となるクラブ練習棟（仮称）の建設。（6月末竣工予定）

さらに仏教学部の拠点となる教育研究棟、仏教・歴史博物館棟（仮称）の建設が始まります。

またJR池袋駅、巣鴨駅などに看板広告を、都営三田線には車内広告、西巣鴨駅では車内放送を行うなど、社会に向けて積極的にPRを行っています。

こうしたことが世間に評価されたからでしょうか、2010年度の入学試験にも多くの志願者が集まり、今後の大学の将来に大きな希望が寄せられています。

2、卒業生の諸君へ

社会の色々な分野で活躍されることになりましたが、「あの新入社員はどこ大学の卒業なの」

「大正大学だよ」「やはり、素直で元気があっついね」

と、このような会話が、あなたを巡って交わされるようになったら、在校生はどれほど喜ぶことでしょうか。また大学の格がどれほど上がることでしょうか。これは私の「夢」なのですが、とても大事な事だと思います。

新たに卒業された皆さんには、各地区の支部の一員として、先輩方と伴に有意義な活動を行って頂きたいと思っております。同窓会本部と致しましては、様々な場面でバックアップを致しますので、大いに活躍してください。

3、これからの同窓会

2012年には、同窓会設立60周年を迎えます。この記念事業、また同窓会の再編、さらに同窓会の基金の保全・活用などに関して、検討委員会を結成して事業の決定と実現を目指しています。

クラブ練習棟(仮称)完成予想図 6月末竣工予定



卓球、空手、剣道、柔道、カバディ部の活動拠点

今後構想されている事業

- 仏教学部の拠点となる教育研究棟、仏教・歴史博物館棟（仮称）の建設
- 仏教をテーマとした総合的な新しい教育・研究体制の確立
- 現代社会との関連でニーズの高い新たな学領域の展開
- 総合的なキャンパス美化計画

ほか

キャンパス総合整備計画の展開

新教育・研究棟、クラブ練習棟完成迫る！

中期マスタープランに基づき、教育・研究体制の充実とともに、ハード面の整備も着々と進んでいます。

第二期工事「新教育・研究棟」は三月に、「クラブ練習棟」は六月末に竣工予定。さらに第二期工事は、仏教学部の拠点となる教育研究棟、仏教・歴史博物館棟（仮称）建設等が進められ、キャンパスが大きく生まれ変わります。

そのコンセプトは、学生はもちろん、卒業生、地域、すべてのステークホルダーに親しみをもっていただけるオープンな空間であること。そして、環境への配慮。新ビジョンを目に見える形で発信していくものです。

計画実施にあたり、卒業生の皆様のお力添えを何卒宜しくお願いいたします。



高さ33.5m。新しいキャンパスのシンボルに



新教育・研究棟（8階建、延床面積8000㎡）のエントランスホール。3階まで見渡せる吹き抜けの空間

『思いやりの心』フォーラム



まずは、清水副支部長(天台宗)が進行を務め、記念講演。気鋭の文化人類学者上田紀行氏をお招きし、仏教のあり方やその展望について語っていただいた。続いて、吉田支部長(智山派)の指導により、安らかな心身の状態を体験することが出来た「瞑想実践」。



大喝采を浴びた「千響」



懇親会は大いに盛り上がり、再会を誓った

吉田支部長による瞑想実践

心に響いたひととき

同窓生の力を結集し、大学との連携をさらに深める

大正大学の新教育ビジョン「四つの人となる」。これを推進していくためには、同窓生が心をつなげて支援していくことが不可欠である。

取り組みとして、平成21年10月11日に埼玉県支部総会「思いやりの心」フォーラムが開催された。

銀杏並木が色づくまでには少し早い。会場は大正大学キャンパス。当日参加者は250名を超え、大盛況の催しとなった。

思いやりの心を形に

大正大学の新教育ビジョン「四つの人となる」。これを推進していくためには、同窓生が心をつなげて支援していくことが不可欠である。

大学が掲げるテーマを色濃く打出すとともに、その具現化に向けて、趣向を凝らして実施に臨んだ。

文庫副支部長(智山派)の司会による総会、吉田支部長(議長)、故石川実行委員長、大室同窓会会長の挨拶の後、議事へ。



多くの会員が集まった総会



上田紀行氏の講演「人生の生きがいはどこを見つけるかー仏教との対話からー」

賛助会費寄附者

平成二十一年二月〜平成二十二年三月一日現在 衆五十音順

- List of donors including names like 青木 伸道, 井上 泰信, 長田 正澄, etc.



総会は、佐乃利支部長の挨拶に続き、陶山義憲本部事務局長よりご祝辞を頂き、議事へと移りました。議事では、予算決算・規約の改正・役員改選などが審議され、全議案承認されました。なお、その他の件として、慶弔規定の不備が指摘され、今後の課題となりました。

議事終了後、後藤恵弘前支部長よりご挨拶を頂き、さらには、陶山義憲本部事務局長より同窓会本部報告をいただきました。

本部報告では、大学の現況についての報告や、仏教学部の開設、中期マスタープランについての説明、同窓会の職域部会についての説明がありました。ここでは、会員から活発に質問などがあり、とても充実した時間となりました。

後懇親会では、塚田宗雄副支部長、平成22年11月9日(火)～10日(水)に行われる「第41回全日本仏教徒会議栃木大会」の実行委員長と言う事で、同大会の概要説明・協力依頼があり、懇親会も和やかなひと時を過ごしました。

なお、新支部長は伴乃利氏、副支部長は源田俊昭氏、林亨尊氏、守田和彦氏、塚田宗雄氏が就任致しました。また、事務局は浄土が担当することになります。

栃木支部会員の皆様には今後とも益々のご理解ご協力をお願いいたします。(事務局 金井 貴雅)

鳥取県支部総会



11月28日(土)、久しぶりに県支部同窓会の交歓会を開催した。場所は鳥取県の中央、倉吉駅前ホテルセントパレス3階である。9人の同窓生がそは降る雨の中集合し、支部長米田良中さんの挨拶で開会した。今秋、藍綬褒章を受章、皇居参内した米田支部長を中心に記念写真の撮影もする。総会では先年残念ながら他界した山田卓明副支部長の後任に工藤純裕さんを選出した。どの工藤さんを講師として、演題「浄土宗ハワイ開教に携わって」の講演会を開く。約20年に亘るハワイ開教使の豊富な体験から、鋭い切り口で現代日本仏教界をバツサリ。今後の課題と抱負を傾聴した。

総会とミニ講演会を終え、懇親会へと移る。米田良中さんが住職を務める三徳山三佛寺は国宝投入堂で有名だが、おりしも世界遺産登録をめざしており、連日多彩な人が来訪されている。年末には宗教学者の山折哲雄師を中心に、鳥取県主催のシンポジウムが予定されている。この日の懇親会では日常の忙しさをおいて、学生時代の思い出を酒脱に語られた。快く初参加してくれた最年少の藤井功輔さんは学生時代にカヌーで日本選手権と全日本学生を制覇したチャンピオン。現在は消防士として活躍している。長く県庁マンとして福祉専門の重責を担った副支部長の山本高三さんが組織人の先輩として「組織を恐れず、自分を見失うことなく頑張れよ」とアドバイス。さすがに有難い忘年の交歓会だ。大学院で正大と縁を持つ山田明茂さんは終始にこやかな表情で歓談。最後の締めはコーラス部出身の鈴置瑞澄さんを中心に校歌を斉唱して散会となった。後、若者達は二次会へ?前日、胃カメラでレッドカードの事務局担当谷本は支部長と共に当日、三徳山へ学術訪問されたわが国年輪年代測定法の確立者・光谷拓実博士と合流して、杯を重ねる貴重な機会をもった。用務のために途中退席の谷本雄史夫妻(旧姓田中聡子さん)には総会の写真係と雑務を快くやって頂いた。

三徳山で必勝を祈願して大きな勝利を手中に入れたボクシングチャンピオン亀田興毅のテレビ画面に興奮したあと脱稿。懇親会の中、同窓生一同「緑は異なもの、有難いもの、大事にしたいもの」と終始語り合ったことを付記しておく。(事務局・谷本信雄 記)

とアウトカースト、それに関わる龍族の影響、又、現代インドで多くの者から慕われる或る日本人僧など、様々な意味で考えさせられる深い感銘と良い機縁を頂きました。

サプライズもありました。一鳥正真先生のご案内で、イギリスで「一邇上人(行者)」の研究をされているマルコム・リッチ夫妻のご参加でした。

一鳥先生が通訳をしながら、マルコム・リッチ教授が自分自身と住んでいる国と場所を紹介しながら、日本で一邇上人の研究が少ないことに惜しむ気持ちを吐露すると共に、自らが取り組む意欲を熱く語って頂きました。近い将来、一邇上人の素晴らしい研究成果が、海外より逆輸入される日が来るのではないかと思います。

懇親会では、総会出席者全員が参加して、和やかな雰囲気の中、楽しい時間を過ごすことができました。

有意義な一日があったという間に過ぎた総会でしたが、新体制役員一丸となって、更に同窓会茨城県支部が発展するように共に手を携えて精進していきたいと思えます。(茨城県支部事務局 松本一浩)

三重県支部総会



平成21年10月23日(金)、平成21年度三重県支部の総会と公開講演会を松坂市のフレックスホテルを会場として開催いたしました。大学創立60周年記念の時に初めて支部が組織化されたものの、昨年度はこれといった活動を見ることなく、昨年度は同窓生の現状把握など同窓生の掘り起こしをはじめ、三重県支部の規約改正等々を協議し、何はともあれ体制を整えて、改めて第一歩を踏み出したばかりです。

平成21年度は総会に先立ち、公開講演会を行いました。小峰彌彦学長の「般若心経の心」と題してご講演をいただきました。今回初めて同窓会員以外の県下各宗(天台、真言、浄土)のご住職、ご子弟、更にはお檀家の皆さんにも案内をし、広く門戸を外に開いて、イベントを通して広く佛法流布の活動と、大学のアピールを側面的に出来ればと企画いたしました。当支部として、具体的な活動としては初めてのことであり、せめて用意した会場が満席にと願っていました。当日会員を含め108名という大勢の参加者に会場は満席に近い状態でありました。

とりわけ「般若心経の心」と題してご講演いただきました学長のお話しは参加をされた方々から大変ご好評をいただき、喜ばれました。日頃くり返し返し読誦している般若心経をどういってかかせてもらえればよいのか、般若心経の真髄にふれ、目から鱗の落ちる思いがしたとも言われていました。

今後も支部活動の一つとして連年の総会と合わせて「何か」を企画してアピールできればと考えています。それには県下の卒業生の更なる結果と同窓意識の向揚が課題でもあります。

公開講演会、総会終了後、懇親会を開きました。出席最長老は昭和25年卒と言われる老優から、親子孫ほど年齢の差がある方々が共に語り合い親交を深め、来年の再会を楽しみに散会いたしました。(三重県支部長 野田義道)

栃木県支部総会

「鴨台会」栃木県支部では、本年度総会を平成21年12月3日(木)に宇都宮「ホテルニューイタヤ」にて開催いたしました。

総会に先立ち理事会が開かれ、その後総会が23名出席のもと開かれました。

同窓会ニュース<支部便り>

次に大学から送られてきた大きな文字で印刷された校歌を、小柳哲也師のリードのもと、声高らかに斉唱し、希望にあふれた大学生に戻った感慨にひたった。

会務、会計報告に続き、規約の一部改正として、支部名称の中に「鴨台会」を加えることが承認された。

役員改選では、平成14年より7年間勤められた小柳純司が勇退され、後任に泉清孝師が選出され、副支部長には田村晴彦師、倉井正則師、その他理事役員も選出され、ますます同窓会を盛り上げていくことを誓って閉会となった。

写真撮影の後、懇親会に移った。仕事の都合で懇親会の途中から出席の会員もあり、大いに賑わい、和やかに、楽しい会話はずみ、次回も元気な姿で再会することを祈念し、また、新しい会員の出席を期待して散会した。

(富山県支部事務局 村井 達英)

大分県支部総会



平成21年7月22日、別府市「悠彩の宿 望海」において、24名の参加者によって本年度の同窓会が行われました。

総会では、小笠原義生副支部長の開会挨拶の後、寺田豪明支部長よりご挨拶並びに同窓会本部理事会で決定された案件等の報告がありました。次に、大分県支部の会務について審議が行われ、全会一致で議事が承認されました。最後に、池田見隆同窓会主監より、現在の大学の現状などの報告があり、同窓会生の創造を越える変化が起きている現状を知ることができました。総会終了後、人間学部仏教学科教授 多田孝文先生による「現代社会における寺院の役割」と題した講演があり、参加者一同熱心に聴講し(先生の問いかけに緊張しながら)先生のお考えを学び合うことが出来ました。懇親会では、坂本泰真師の乾杯の御発声の後、一年ぶりの再会を喜び合い懇親を深めることが出来ました。最後には、全員で大正大学校歌を高らかに歌い、来年の再会を誓い合いました。

茨城県支部総会



平成21年10月7日、ホテルイクビュー水戸を会場として、大正大学教授一鳥正真先生、同窓会本部主管池田先生をお迎えし、同窓会茨城県支部の総会が開催されました。

今回は、支部役員改選の総会という大きな区切りでしたが、25名と多くの方の出席を頂いた中、円滑な引き継ぎが行われました。

ここに紙面をお借りいたしまして、前支部長中山上人をはじめとした役員皆さまのご苦勞に深甚の謝意を申し上げます。ありがとうございました。

講演は、前回総会の時、諸般の事情でお迎えできなかった一鳥正真先生にお越し頂き「ナーガ族(龍族)と法華経」を講説頂きました。仏陀、カースト

群馬県支部公開講演会



平成21年7月8日、大正大学同窓会群馬県支部の公開講演会が、伊勢崎市文化会館に於いて開催されました。

開会に先立ちまして、小峰彌彦学長よりご挨拶をいただき、竹林守司校友会会長補佐より大正大学の現状や、これからの課題・展望等についての報告をしていただきました。

引き続き形で、今年度より大正大学客員教授となられました、井沢元彦先生により「上州から見た日本の歴史」と題してご講演いただき、少人数の会場ではありましたが、入場者の中にはメモをとるなどして、熱心に聞き入っていました。

公開講演会終了後には会場を移し、やぶ塚温泉ふせじまに於いて、総会並びに懇親会が開催されました。

まず、総会では、事業報告に続き収支決算報告を行い、次に役員改選が行われ、新支部長に北條哲成氏が選出されて、平成21・22年度は、浄土宗が事務方を担当することになりました。

また、大正大学同窓会の呼称が「鴨台会」とされたことに伴い、群馬県支部では規約の一部改定し、大正大学同窓会「鴨台会」群馬県支部とすることに決定致しました。

これにより、多くの同窓生がより親しみを持って、同窓会活動への積極的な参加へと繋げていけるよう、今後も努めてまいりたいと思えます。

総会終了後には懇親会が開催され、なごやかな雰囲気の中にも今後の課題等について話し合う姿も見られるなどして、会の発展と会員各位の活躍を祈念し、閉会となりました。

最後に、総会・公開講演会を開催するにあたりまして、大学並びに同窓会本部をはじめ、お力添えを賜りました方々に、紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。(群馬県支部事務局 宮川泰淳)

富山県支部総会



平成21年7月18日(土)、富山県支部総会が、富山市パレプラン高志会館にて開催された。

開会にあたり、物故同窓生追悼の黙祷をし、ありし日の先輩諸兄姉を偲んだ。次いで、小柳支部長の挨拶があり、次のような要旨であった。

- 1.同窓会名称「鴨台会」について
- 2.終身同窓会費の税制優遇処置について
- 3.学部の変更について
- 4.昨年の受検事情について
- 5.大学90周年について
- 6.同窓会60周年について



大正大学 硬式庭球同好会WELDON'同窓会



去る2009年12月25日、池袋・パセラにて大正大学硬式庭球同好会WELDON'29代の同窓会を開催しました。

卒業して早9ヶ月…学生の頃とは少し顔つきの変わった仲間に少し驚きましたが、話す中身は変わっていないことに安心しました。

今回は、11人全員の進路が決定したことを祝い、それぞれの近況報告を行いました。

希望していた企業で頑張っている仲間、夢を追いかけて進学した仲間…それぞれの話を聞いていると、自分も頑張らなければと思いました。

11人全員は集まれなかったこと、当日はちょうどクリスマスだったこともあり、参加した9人でそれぞれクリスマスカードを書き交換をしました。

学生時代、よくアルバムやメッセージカードなど作成するのが好きだった私たちが楽しい企画でした。

地方に就職した仲間・仕事の都合で参加できなかった仲間の分は、全員で書き、後日郵送しました。

2005年の春に入学した時は、こんなに素晴らしい仲間にめぐり合えるとは思っていませんでした。

週2日(水曜は大正大学付近の滝野川第二小学校、日曜は大正大学埼玉校舎にて)の練習、年3回の合宿、その他沢山の年間行事を通して、まるで家族のような絆で結ばれた11人だと思っています。

これから集まることは年々難しくなると思いますが、折をみてまた近況報告の場を設けたいと思っています。

今回、同窓会から助成金をいただきありがとうございました。

活躍する同窓生

史学科卒業生
一坂 太郎氏 著

『わが夫 坂本龍馬』
お礼状書き

朝日新聞出版 朝日新書205
ISBN 978-4-02-273305-4

定価735円(本体700円) 新書版 210頁

大河ドラマによる龍馬ブームの中、本学卒業生による著書が話題となっている。一坂太郎氏は平成2年文学部史学科卒。現在、菟博博物館特別学芸員、山口福祉文化大学特任教授、防府天満宮歴史館顧問。長州維新史を中心とした研究・執筆多数。同著は、妻おきょうが残した聞き書きから、単なる偉人・英雄像にとどまらない龍馬の素顔を描いている。著作および講演、研究活動の詳細は、一坂氏が主宰する春風文庫ホームページをごらんいただきたい。

<http://www.h2.dion.ne.jp/~syunpuu/>

卒業生の各々の出身地で順番にやることになりました。

今回は、群馬県の館林市出身の風間敏弘君に幹事をお願いして、参加者6人で、12月26日に同期会を開催しました。

当日は、午後2時に東武伊勢崎線の館林駅東口に集合し、夕方まで童話「分福茶釜」で有名な茂竹寺、田山花袋記念文学館、城沼などを観光しました。それからホテルにチェックインし、居酒屋「松ぼっくり」で宴会となりました。

参加者の現在の職業は、教師、会社経営者、音楽事務所代表、住職と様々で、はじめの話題は仕事、健康問題、家族のことなど、それぞれの近況が中心でしたが、徐々に32年前の大学時代の話題に移っていきました。卒論の話になると、アリストテレス、カント、フッサール、ニーチェ、キルケゴールなどの哲学者の名前が出てきて、「transzendental」というドイツ語や「反復」という哲学用語での久しぶりの哲学談話でした。30年以上の時間が経過しているにもかかわらず、一人ひとりの「哲学」への情熱は、今も変わっていませんでした。どのような職業に就いても、その人の中で、西洋哲学で学んだことが、なんらかの形で生かされていることを実感させられました。

その後、会場はカラオケスナックへと移り、二次会となりました。そこでは70年代の懐かしい加藤和彦、長渕剛などのフォークソングなどのヒット曲が歌われました。

三次会は、ホテルの前の居酒屋で地酒を飲みながら、夜遅くまで続けました。

来年の同期会の幹事は、茨城県の潮来市出身の鷲森了英君と決まり、翌日の朝には、「来年また潮来で、元気で会おう」と約束して解散しました。(高徳 忍)

茨城県支部ゴルフ大会



昨年に続き、同窓会同志の親睦会を囲むため第2回茨城支部同窓会ゴルフ大会を7月2日茨城県のほぼ中央の位置にある千代田カントリークラブで開催いたしました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、27名の参加を頂き盛大に開催することができました。

今回は同窓会本部より助成金を頂きましたので賞品等も豪華にすることができました。今後も宜しくご支援をお願いするところです。

魅力ある支部の活動としてゴルフ大会を取り入れてみました。若年から大先輩まで幅広く交流ができ大成功だったように思います。

これも偏に、支部長様はじめ役員皆様のご理解、ご協力の賜と感謝しております。

今後の支部活動のステップになることを期待し、ご報告申し上げます。(事務局 仲田照道)

「鴨台会報」では、各支部・同期会の新たな取り組み、催しのほか、同窓生の活躍についてもご紹介していきます。ぜひ情報をお寄せください。

同窓会ニュース<同期会便り>

躍る姿を垣間見る機会に恵まれたことは、今後の励みとなるのではないかと感謝しています。何より、同期の元気な笑顔を見ることができて、ずいぶん力をもらいました。

最後に、同窓会開催のお話を下さった石川到覚先生、同窓会実現にご助力いただいた宮崎牧子先生、案内状の送付から会場準備まで幹事以上に尽力してくれた専攻副手であり同期の櫻井淳子氏に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。今回参加できなかった同期のために、ぜひ次回開催を次期幹事に実現させて欲しいと思っています。(1997年卒業同窓会幹事:瀧本、竹中、君島)

平成20年度卒NCC第一期生同期会

去る11月3日、平成20年度卒NCC第一期生同期会を大正大学近くの華典にて開催いたしました。

卒業して1年足らずの開催。当日は祝日、次の日が平日ということもあってなかなか思うほど人数が集まらないという心配も杞憂で、比較的多くの卒業生が集まりました。乾杯前からすでに笑い声が絶えないほどで、学科に関係なくうちとけた雰囲気は、まさにNCCらしいものだったと思います。

本会は同期会としてだけでなく、現在NCCに所属している在学生と卒業生との交流・就活情報交換の場としても催しました。その主旨を弓山先生からご説明いただき、一度目の乾杯。その後、銀杏祭に模擬店(今年ももちろんチョコバナナ!)を出店していた学生たちが片づけを終えて合流。あらためて塩入先生からご挨拶をいただき、二度目の乾杯となりました。また、会の途中から、近況報告を参加者33名全員で行ないました。ほろ酔い気分も手伝って、驚きの報告を(うっかり?)された方もいらっしゃるなど大盛り上がりななか、あっという間に予定の時間となってしまいました。

当日は銀杏祭最終日ということもあり、予想よりも多くの在学生が集まりました。先輩や先生方と今後の進路など、時に真剣に、時に笑いを交えながら話していました。先輩・後輩間のつながりが強いNCCだからこそ、本会のような企画にも在学生が気兼ねなく参加してくれたのだと思います。

NCC発足後、はじめての卒業生として巣立った私たち。なかには、職場で抱えている悩みや生活が変化したことによる戸惑いを先生や同期生に相談している卒業生もいました。学科・専攻を越えて誰でも参加できるNCCには、さまざまな人がいます。そしてそれは、いろいろな話ができる相手がいるということでもあるでしょう。今後もこのような会を継続していくことで、互いに刺激し、成長しあえるつながりをつくっていかれたらと思います。

最後に、お忙しいなかご出席くださった主任の弓山先生、塩入先生、君島先生、そしてNCC副手として大学に勤務されていた総務課の田尻さん、張堂さん、田村さん、また現副手の片岡さん、本当にありがとうございました。そして、会場手配や卒業生への連絡など本会の準備を行なってくださった副手の河合さん、本当にお疲れさまでした。(日影真弓)

西・哲77会



文学部哲学科西洋哲学専攻1977年度卒業生(1974年入学)の同期会は、ここ数年毎年、忘年会を兼ねて、有志数人で実施していましたが、今年から

平成21年度 カウンセリング研究所 臨床心理学科交流会



カウンセリング研究所・臨床心理学科卒業生と教員、カウンセリング研究所相談員、さらに在校生が集う交流会が、去る10月10日(土)に学内2号館8階会議室を会場として開催されました。当日は好転にも恵まれ、三連休の初日であったにも関わらず、42名の出席者を得ることができました。

今年度は、出席者全員から卒業生、学部生、大学院生、そして教員といった立場から、それぞれの近況や臨床心理学に対する思いなどをお話いただき、とても貴重な歓談の場になったのではないかと思います。

また、今年度から客員教授として村瀬嘉代子先生をお迎えし、これからの臨床心理士の展望や在り方も含めてご挨拶をいただきました。

今後も、新旧の交流を深め、参加者同士の情報交換やネットワーク作りの場として活用いただける会となるよう願っています。(臨床心理学科交流会幹事一同)

社会福祉学'97卒業生同窓会



平成21年11月3日、社会福祉学専攻1997年3月卒業の同窓会を大正大学2号館8階で行ないました。当日は天候に恵まれ、8階の窓から遠くに富士の山頂を望む澄み渡った景色のなか、20名の卒業生とその子どもたちの総勢24名で、和やかに同窓会を執り行うことができました。1997年卒業の同期は、人間学部開設の第一期生です。先輩の前例を単純には踏襲できず、新体制に戸惑うなか先生方のご指導をいただきながら4年間の学生生活を送ることができたと記憶しています。残念ながら都合がつかず、お世話になった先生方にはご参加いただけなかったですが、恩師である在学当時専攻主任の石川到覚先生、落合崇志先生より書面にて卒業生へのお言葉を賜ることができ、会場から学生時代を懐かしむ声があがりました。会は3時間にも亘り、現在の職場の話、思い出話に花が咲き、会場を駆け回る可愛らしい子どもたちのお陰もあって、賑やかに楽しい同窓会となりました。

ひとりひとりの挨拶と近況報告からは、それぞれの活躍の場で充実した生活を送っている様子を窺い知ることができました。卒業生のなかには、これまでに大学教職員経験のある人、現在従事している社会福祉施設が学生の現場実習の場、またボランティアサークルの活動の場となっている人もありました。何らかの形で大学や専攻との有機的な交流が現在も継続されていることは、卒業生として素晴らしいことだと改めて感じました。卒業してから13年が経ち、社会の中で中堅として力を発揮すべきこの時期に、同期の活

平成21年度卒業生世話人一覧

●人間学部

学 科	専 攻	氏 名	学 科	専 攻	氏 名
仏 教 学 科	仏教・思想文化	山本 麻美	人間福祉学科	社会福祉学専攻	村尾 暢
		田中 祐子			久松 佐恵子
	仏教・天台	加藤 泰崇			大山 友理子
		竹林 俊光			鎌形 光
	仏教・豊山	山崎 秀法			磯見 綾
	仏教・智山	栗原 賢臣			阿部 勝光
		橋本 善行			高橋 央
		元山 憲寿			黒川 綾乃
	仏教・浄土	小林 健志			鈴木 聖大
		後藤 史孝			徳岡 大
		清水 隆季			石嶋 誠
	人間福祉学科	社会福祉学専攻			小林 拓部
原澤 友美			人間科学科		清川 琢久

●文学部

学 科	専 攻	氏 名
表現文化学科	日語・日文	久間田 兼
		平岡 尚子
		北林 菜莉代
	創作・表現	矢島 京子
		伊藤 友里
		守屋 優
	哲学・宗教	富岡 由菜
		官野 里菜
	欧米文化	成川 菜菜美
		遠江 咲子
	英 コ ミ	成田 大和
		伴 祐次
歴史文化学科	日 本 史	北山 文
		長島 希
		山下 真理子

この度、同期会世話役人の一人として、ご挨拶させていただく機会を賜りましたが、卒業も明日になれば懐かしいと思えるのでしょうか。同

キャンパスを背に、本日より社会へと踏み出される皆様、おめでとうございます。就職、進学、それぞれ

の道に進む一歩となる卒業式を迎えることができ、心からお喜び申し上げます。と、卒業する私が言うのも可笑しな話ではありますが(笑)。

わたしたちが将来の道を選ぶ四年生の時期には重度の就職氷河期などと言われ、リクルートスーツに身を包み真っ黒な「就活」という海に溺れそうになりながら過ごす時間を長く、苦に思うこともありましたが、



ごあいさつ
同期会世話役人
文学部表現文化学科
矢島京子

ですが、面接や人事の方との対話の中で、大学生活のことを話したり大学で学んだことを話したりすると、思わず顔がほころんでしまうような友人との時間も思い出されました。それまで、同じキャンパスで共に過ごしていた友人たちとの思い出は、いつの間にか自分を支える糧となり、

力となり、社会に立ち向かう一歩の背中を押してくれる存在となっていました。

最後にになりましたが、卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして卒業まで多くの時間を支えてくださった先生方、心から、深く感謝申し上げます。平成二十一年度卒業生の皆様と大正大学の益々の発展をお祈りしまして、卒業の挨拶とさせていただきます。

懇話の話など気が早いと、目を移されるかも知れませんが、大正大学生だった今までの四年間をしみじみと懐かしむ時は、一年生だったあの頃が懐かしいと思えるように、きつとやってくるでしょう。同期会は同窓会本部内で横の繋がりをお手伝いするもので、卒業生同士が同窓会を開きたい、という場合にご助力致します。多くの仲間と再会したいと思われたら、同窓会本部へご連絡ください。わたしたち同期会世話役人もお力になれると存じます。大学の桜もつばみを膨らませ、私たち卒業生の後に大学へ入る新入生の期待も膨らんでいる頃だと思えます。私たちがもまらずに明日から、これからの時間に不安よりも期待を膨らませて参りましょう。その方がずっと、楽しいです。

ラウンジ Lounge

水は万物を潤し、水に頼らずに生きることの出来るものは何もない。にもかかわらず、水はそれによって他を支配し争うこともない。また人間が高い所を求めると対して、水は低い所に流れていくだけだ。さらに、水は低い所に流れることによって、次第に大きい流れとなり、大海になることが出来る。人間とはこのようにあることが上善(最上の善)であると老子はとっている。卒業生の皆様頑張って下さい。(YS)

皆様の声をお待ちしております

本誌をお読みになった感想、学生時代の思い出、近況など、皆様の寄稿をお待ちしております。また、先生方やサークルの近況、昔よく行ったお店の今など、取り上げて欲しいトピックスなどありましたら、どうぞお知らせください。

大正大学 同窓会「鴨台会」 〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1 TEL.03-5394-3031 FAX.03-5394-3014 Eメール:dousou@mail.tais.ac.jp